

ウクライナにおける日本語学習者を対象とする
 地域認識・認知度に関する調査研究
 —北陸地方・富山県を中心に—

A Study on Knowledge and Preferences of the Regions of Japan among Ukrainian
 Students of Japanese Language: Hokuriku Region, Toyama Prefecture

1. はじめに

現在、富山県ではロシア語を耳にする機会が比較的多い。その理由は富山県が日露貿易などの経済活動に伴うビジネス取引先として魅力ある拠点と認識されているからであろう。富山県のホームページにロシア語のバージョンもあり、県内ではロシア語教育も重視されている。ところが、現在、富山県のロシア語圏西部諸国への関心は薄いと言わざるを得ない。富山県ではロシア語サイトを開設しているが、県の交流対象・興味対象はロシア全域ではなくロシア極東地域に集中しているのである。しかし、今後はロシアの極東の狭い地域に集中せず、ロシア語全土やその周辺（ウクライナ・ベラルーシ・モルドバ・グルジア等）のロシア語圏とも交流関係を築くことが富山県の発展を加速させる要因になるであろう。

日本と遠く離れているロシア語圏諸国の一つウクライナでは日本や日本語への関心が高く、日本語を勉強する学生・研究者も多い。また、ウクライナ国内でも最近すし屋や日本食レストランが急増し、技術、芸能、アニメや漫画を含め日本の近代文化に興味を持つ人が増えている。首都キエフや地方大都市においては日本ブームという現象も見られている。日本語を勉強する大学生も増え、一般国民も将来的に観光客として来日することが多くなるに違いない。

日本語・日本文化に興味を持っているウクライナ人の日本語専門家や学生を調査対象として、彼らの日本・北陸地方・富山県に関する認知度・関心を調査し、今後の交流の発展の仕方や情報の提出に関する基礎資料を収集するとともに、ウクライナ側からの要望や若者・研究者の交流に関する意見なども集約した。研究者は2012年9月にキエフ言語大学日本語学科を訪問し、当学科の学生を中心にアンケート調査を行った。

2. アンケート調査研究の目的

研究の目的は次の通りである。

- ・ 日本語を学んでいる学生や研究者が日本で一番興味がある場所、地方および日本で望んでいる活動・職業などを調べる。
- ・ 北陸地方に関する知識を調べ、北陸地方はどのような面で魅力があるのかを調べる。
- ・ 富山県に関する認識・認知度を調査する。

3. キエフ言語大学における日本語教育の現状

本研究をキエフ国立言語大学で行う理由は、当大学の日本語学科が大規模で日本語を専攻している学生が 200 名以上で、毎年日本政府（文部科学省）奨学金留学生（日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生など）として何名か日本へ留学するからである。主な留学先は京都大学、東京外国語大学、大阪大学、名古屋大学、早稲田大学、東京学芸大学などである。また、大学卒業後、ウクライナと日本との関係に貢献する活動を行う学生が多い。キエフ言語大学出身者は現在、在ウクライナ日本大使館、在日ウクライナ大使館、日本の一流会社や大学などに勤めている。日本で日本語や日本文化の研究生として活躍している人も何名かいる。

将来的にキエフ言語大学の学生を中心に、ウクライナの大学日本語学科から北陸地方・富山県へ交換留学生や私費留学生として留学を希望する者を増加させるため本研究は役立つと期待されている。

4. 北陸地方・県に関するアンケートについて

地域認識・認知度に関するアンケートは 17 問からなっており、ウクライナにおける日本語学習者を対象としているので、ロシア語で作成されている。問 1~問 6 は日本の地方・全国の事情、などについての質問で、問 7~問 9 および問 16 は北陸地方に関する質問で、問 10~問 15 は富山県と関係がある。問 17 は対象者の職業・学年（学生の場合）についての質問である。

本アンケート調査に参加したのはキエフ国立言語学・東洋言語学部・日本語学科の 1 年生 26 名、2 年生 6 名、3 年生 18 名、4 年生 13 名、5 年生 5 名、教員 3 名（合計：71 名）

4.1. アンケートの実例

実施したアンケートは下記である。

表 1 アンケート

問 1 機会があれば日本ではどんな活動をしたいですか（複数回答可）

1. 勉強
2. 研究
3. 教育の分野での職業
4. 会社か国家機関での職業
5. 自営業
6. そのほか
7. 興味がない

問 2 日本で留学や就職するために来た場合どこに住みたいですか（複数回答可）

1. 大都会（人口：百万人単位）
2. 都市（人口：十万人単位）

3. 町 (人口：万人単位)

4. 田舎

問 3 日本人と知り合いになったら、その人の出身地方・県はあなたにとって重要ですか

1. はい、出身地方・県は人間関係に大きく影響を思うので、重要である。
2. 重要ではあるが、人間関係に大きな影響がないと思う。
3. 全く重要ではない。

問 4 どの地方に一番興味を持っていますか？どんな地方を一番訪問したいですか（複数回答可、ただし3つまで）

1. 北海道
2. 東北・本州の北部や東北部 (青森、宮城・仙台、福島)
3. 関東 (東京、神奈川・横浜、埼玉、千葉)
4. 甲信越・山地 (長野、山梨)
5. 北陸・日本海 (福井、石川、富山、新潟)
6. 東海・太平洋 (愛知・名古屋、静岡、三重)
7. 関西 (大阪、京都、兵庫・神戸)
8. 中国 (広島、岡山、山口、鳥取)
9. 四国
10. 九州
11. 沖縄

問 5 上記の中から留学・就職したい地方を書いてください。

1. _____
2. _____
3. _____

問 6 日本には幾つかの気候地帯があるが、あなたにとっては冬の季節に雪の有・無は大切ですか。

1. 冬は雪があるところに過ごしたい。冬に雪は大切だ。
2. 一年中雪がない方がいい。
3. どちらでも良い。

問 7 北陸地方・日本海側で留学や就職に興味がありますか。

1. とても興味がある。
2. ほかの選択肢がなければ、興味がある。
3. 全く興味がない。

問 8 北陸地方で一番興味がある県はどれですか

1. 福井 (福井市)
2. 石川 (金沢市)
3. 富山 (富山市)

4. 新潟（新潟市）
5. 北陸地方の県に興味がない

問9 北陸地方に住んでいた・住んでいる・住む予定がある友人はいますか。

1. います。（県を記入してください） _____
2. いません。

問10 富山県には日本の有名なメーカーである YKK 会社があります。この会社は何を生産しているか知っていますか。

1. はい、YKK 社は _____ を生産しています
2. わかりません

問11 富山県はウクライナとどんな産業や経済分野で協力できると思いますか。

1. 医療・医学
2. 食品業
3. 農業
4. 建設
5. 観光
6. 教育・文化
7. そのほか _____
8. 答えに苦しみます。

問12 富山県は福島第一原子力発電所から半径 300 キロぐらいのところにあります。福島原発との距離は、富山への長期滞在を阻止する原因になりますか。

1. 富山への長期滞在を阻止する原因になりません。
2. 富山への長期滞在を阻止する原因になります。

問13 富山県は自然が豊か（おいしい水、きれいな空気）で、素晴らしい山の景色（北アルプス）や海の幸で有名です。日本に住む場所を考えたら、そのことは大きく影響しますか。

1. はい、いい環境は大きなメリットだと思います。
2. いいえ、より発展している企業地帯を優先します。

問14 富山県・北陸地方の方の知り合いがほしいですか。

1. はい、富山県・北陸地方の方の知り合いを持つことは大きなメリットだと思います。
2. 知り合いを持ちたいが、どんな地方の方かは関係ないと思います。
3. 個人関係を作ろうと思いません。集団交流のレベルがいいです。

問15 富山県の町はあなたの町と姉妹都市になってほしいと思いますか。

1. はい、文化交流やビジネス関係にいい影響を与えますと思います。
2. なにか意味があると思いません。

問16 北陸地方とウクライナは教育・文化交流を行い、ビジネス・貿易等の関係を強めるのにどうすればいいと思いますか。あなたからのアドバイス・提案・アイデアなどを聞

かせてください。 _____

問 17 ご自身の地位についてお教えてください：

1. 学生 _____年
2. 教員
3. その他

4.2 日本の地方・全国の事情に関する問題の分析

日本語を学んでいる学生や研究者が日本で希望する活動・興味がある場所、地方・県の認知度などを調べた結果は次のとおりになっている。

(問 1) 機会があれば日本ではどんな活動をしたいですか (複数回答可)

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. 勉強	21	5	16	11	2	2	57 (80)
2. 研究	0	1	5	7	2	3	18 (25)
3. 教育の分野での職業	6	2	5	3	0	1	17 (24)
4. 会社か国家機関での職業	9	1	7	3	1	2	23 (32)
5. 自営業	1	0	5	1	2	0	9 (13)
6. そのほか	3	0	3	4	0	0	10 (14)
7. 興味がない	0	0	0	0	0	0	0

アンケート調査の参加者 57 名 (80%) は日本へ留学のために行きたいとわかった。3 名の教員の内に 2 名も留学を考えている。23 名 (32%) は会社か国家機関での職業を望み、18 名 (25%) は研究、17 名 (24%) は教育の分野での就職を考えている。また興味がないと答えた人は一人もいなかった。この結果はウクライナ人の日本への関心を裏付けるものである。

(問 2) 日本で留学や就職するために来た場合どこに住みたいですか (複数回答可)

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. 大都会 (百万人単位)	10	0	6	7	2	1	26 (37)
2. 都市 (十万人単位)	16	4	11	8	2	2	43 (61)
3. 町 (万人単位)	2	1	5	1	0	0	9 (13)
4. 田舎	0	1	2	0	1	0	4 (6)

日本で外国人留学生や労働者が東京・大阪などの大都会に住みたいという間違ったイメージがあるかもしれない、アンケート調査の参加者の大半 43 名 (61%) は日本に留学や就職で移住する場合、人口十万人単位の都市に住むことを希望している。北陸地方 4 県の主な都市は全てそのカテゴリーに入っている。新潟県：新潟市圏 (94 万 7310 人) 長岡都市圏 (36 万 5654 人) 上越都市圏 (24 万 4810 人)、富山県：富山都市圏 (54 万 1761 人)、高岡都市圏 (37 万 4530 人)、石川県：金沢都市圏 (73 万 2467 人) 福井県：福井都市圏 (56 万 0601 人)。東京、大阪、名古屋のような大都会に住む場所として考えている人は割と少なく、合わせて 26 名で、たった 37% になっている。

(問 3) 日本人と知り合いになったら、その人の出身地方・県はあなたにとって重要ですか

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. はい、出身地方・県は人間関係に大きく影響を思うので、重要である。	1	0	0	0	0	0	1 (1)
2. 重要ではあるが、人間関係に大きな影響がないと思う。	14	1	11	9	3	1	39 (25)
3. 全く重要ではない。	11	5	7	4	2	2	31 (24)

アンケート調査参加者の中で思ったより多くの人が知り合いの日本人がどんな地方の人かを注意する。合わせて 40 名 (56%) が相手の出身地方・県が重要であると答えている。

(問 4) どの地方に一番興味を持っていますか? どんな地方を一番訪問したいですか (複数回答可、ただし 3 つまで)

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. 北海道	10	1	6	7	3	1	28 (39)
2. 東北・本州の北部や東北部 (青森、宮城・仙台、福島)	1	3	1	2	0	1	9 (13)
3. 関東 (東京、神奈川・横浜、埼玉、千葉)	21	2	11	1	2	1	38 (54)
4. 甲信越・山地 (長野、山梨)	5	0	3	1	0	0	9 (13)

5. 北陸・日本海（福井、石川、富山、新潟）	4	2	5	2	2	0	15 (21)
6. 東海・太平洋（愛知・名古屋、静岡、三重）	6	0	8	3	0	2	19 (27)
7. 関西（大阪、京都、兵庫・神戸）	17	6	15	12	2	3	55 (78)
8. 中国（広島、岡山、山口、鳥取）	1	1	1	0	0	0	3 (4)
9. 四国	0	0	1	0	0	0	1 (1)
10. 九州	0	0	1	1	2	0	4 (6)
11. 沖縄	10	1	1	6	4	1	13 (18)

(問5) 上記の中から留学・就職したい地方を書いてください。(3つまで)

	1年生 (26)	2年生 (6)	3年生 (18)	4年生 (13)	5年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71名)
1. 北海道	2	0	5	5	1	0	13 (18)
2. 東北・本州の北部や東 北部（青森、宮城・仙 台、福島）	1	3	2	3	0	1	10 (14)
3. 関東（東京、神奈川・ 横浜、埼玉、千葉）	23	3	11	9	3	1	50 (71)
4. 甲信越・山地（長野、 山梨）	3	0	0	1	0	0	4 (6)
5. 北陸・日本海（福井、 石川、富山、新潟）	9	2	5	0	0	1	17 (24)
6. 東海・太平洋（愛知・ 名古屋、静岡、三重）	8	2	8	5	2	2	27 (38)
7. 関西（大阪、京都、 兵庫・神戸）	20	6	16	10	2	3	57 (80)
8. 中国（広島、岡山、 山口、鳥取）	1	0	2	0	0	0	3 (4)
9. 四国	1	0	1	0	0	0	2 (3)
10. 九州	0	0	3	0	0	0	3 (4)
11. 沖縄	5	1	0	3	1	1	11 (16)

問4-5から日本で興味がある場所と住みたい場所の違いがみられる。第一は関西地方：訪問したい55名(78%)、住みたい57名(80%)。第二は関東地方：訪問したい38名(54%)、

住みたい 50 名 (71%)。しかし、「訪問したい」の面からみると北海道は 28 名 (39%) と人気順で 3 位になったが、留学や就職する場所としては 13 名 (18%) に選ばれ、東海地方 27 名 (38%) と北陸地方 17 名 (24%) の後で、人気順で 5 位になっている。それに対し東海地方は留学や就職し、住みたい場所としては 3 番目になったが、「面白い。訪問したい」場所としては 19 名 (27%) に選ばれ、北海道に負けている。

北陸地方は参加者の 15 名 (21%) に「面白い。訪問してみたい」場所として見られ、17 名 (24%) に「留学や就職をし、住みたい」場所として認められている。要するに、キエフ国立言語大学の日本語専攻学生の 5 分の 1 が北陸地方へ訪問したい、4 分の一は日本に留学か就職するなら北陸を希望しているか少なくとも考えているということがアンケート調査からわかった。

北陸地方は雪がたくさん降っているが、雪に関する日本語学習者の要望を調べると下記のとおりになる。

(問 6) 日本は幾つかの気候地帯があり、あなたにとっては冬の季節に雪の有・無は大切ですか。

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. 冬は雪があるところに過ごしたい。冬の季節に雪は大切だ。	2	0	5	6	1	0	14 (20)
2. 一年中雪がない方がいい。	2	2	1	1	1	1	8 (11)
2. どちらでも良い。	22	4	12	6	3	2	49 (69)

問 6 の回答を分析したら、学生の中からたった 11%、10 人に 1 人が冬期間に雪がない方がいいと思っている。14 名 (20%) は雪を望み、49 名 (69%) はどちらでも良いと思っている。合わせて調査参加者の 89%は富山県に長期滞在する場合、雪は障害になるとは思っていない。

4.3.北陸地方に関する問題の分析

キエフ言語大学日本語学科の学科長や先生方と話をし、日本語を学んでいる学生は北陸地方に関する知識が浅いことがわかった。研究者は学生に北陸地方を紹介し、次の問題に回答を求めた。

(問 7) 北陸地方・日本海側で留学や就職に興味がありますか

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	教員	合計 (%)
--	------	------	------	------	------	----	--------

	(26)	(6)	(18)	(13)	(5)	(3)	(71名)
1. とても興味がある。	17	4	13	4	2	3	43 (61)
2. ほかの選択肢がなければ、興味がある。	8	2	5	8	2	0	25 (35)
3. 全く興味がない。	1	0	0	1	1	0	3 (4)

北陸地方は留学や就職を考えている日本語学科の学生や教員が殆どで、興味がなかったのはたった 3 人だけ。この結果は北陸地方が他の地方より優先されていることを示すわけではないが、北陸地方に潜在的に留学・仕事などを考えている学生が多いことが明らかになった。

(問 8) 北陸地方に一番興味がある県はどれですか。

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71名)
1. 福井 (福井市)	2	1	0	0	0	1	4 (6)
2. 石川 (金沢市)	12	0	7	3	1	0	23 (32)
3. 富山 (富山市)	12	5	10	6	4	2	39 (55)
4. 新潟 (新潟市)	2	0	0	2	0	0	4 (6)
5. 北陸地方の県に興味がない	0	0	3	3	1	0	7 (10)

この結果を見てわかる通り、富山県が一番人気だった。学生が富山県の富山国際大学の教員が本研究を行うことを理解していたことで、富山県が多少優先される傾向があったかもしれない。しかし、それは彼らの選択に絶対的な影響を与えたとは研究者は思っていない。

(問 9) 北陸地方に住んでいた・住んでいる・住む予定をしている友達がありますか。

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71名)
1. います。(県を記入してください) _____	3 福井 (1) 石川 (1) 新潟 (1)	0	2 新潟 (2)	0	0	0	5 (7%) 福井 (1) 石川 (1) 新潟 (3)
2. いません。	12	6	16	13	5	3	66 (93%)

上記を見ると、キエフ言語大学の学生に北陸地方に友達が最も多くいる県は新潟県で、富山県は友達が全くいない唯一の県である。合わせて 5 人だけの学生に北陸地方に友達がいるのは、少なすぎると認めざるを得ない。ウクライナの日本語学科大学生の中に北陸地方はほとんど知られていないとのことを論じる。

4.4.富山県に関する問題の分析

キエフ言語大学日本語学科の先生方と学生の話から分かったのは、特に一年生はまだ日本の地理、社会、歴史などの授業を行っていないため、富山県の存在についても知らない人がいる。ところが富山の代表的な YKK 会社については聞いたことがある学生はそんなに少なくはなかった。

(問 10) 富山県には日本の有名なメーカーである YKK 会社があります。この会社は何を生産しているか知っていますか。

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. はい、YKK 社は ___を生産しています (正解)	5	0	4	3	2	1	15 (21)
___を生産しています (誤解)	2	0	0	0	0	0	2 (3)
2. わかりません	19	6	14	10	3	2	54 (76)

この結果を見て興味深いと思うのは 1 年生、2 年生より 3 年生、4 年生や特に 5 年生の正解率が高くなっていくことである。キエフ言語大学日本学科の学生は 3 年生になってから日本のメーカー、企業かについての知識が身につくのではないかと論じた。

(問 11) 富山県はウクライナとどんな産業や経済分野で協力できると思いますか(複数回答可)

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. 医療・医学	8	1	5	4	0	0	18 (25)
2. 食品業	4	2	1	1	0	0	8 (11)
3. 農業	3	0	1	1	1	0	6 (8)
4. 建設	1	1	2	0	0	0	4 (6)
5. 観光	9	1	5	7	2	0	24 (34)
6. 教育・文化	11	5	4	4	2	0	26 (37)
7. そのほか _____	1 重機	0	2 電子力 貿易	0	2 エスノツ ーリズム 品物	0	5 (7)

8. 答えに苦しみます	1	0	4	5	0	3	13 (18)
-------------	---	---	---	---	---	---	---------

11 問の答を分析するとウクライナ人の日本語学習者にとっては、教育・文化交流の分野 26 名 (37%) と観光 24 名 (34%)、<そのほかに入ったエスノツーリズムも観光の種類として計算すれば 25 名になっている>がウクライナと富山県が協力できる分野として考えられている。日本語を専攻している大学生はこの二つの分野で自分の仕事を見ていることではないか。

(問 12) 富山県は福島第一原子力発電所から半径 300 キロぐらいのところにあります。福島原発との距離は、富山への長期滞在を阻止する原因になりますか。

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. 富山への長期滞在を阻止する原因になりません。	24	6	14	11	4	3	62 (87)
2. 富山への長期滞在を阻止する原因になります。	2	0	3	2	1	0	8 (11)

アンケート対象者 1 名 (1%) は問 12 に答えなかった。

(問 13) 富山県は自然が豊か (おいしい水、きれいな空気) で、素晴らしい山の景色 (北アルプス) や海の幸で有名です。日本に住む場所を考えたら、そのことは大きく影響しますか。

	1 年生 (26)	2 年生 (6)	3 年生 (18)	4 年生 (13)	5 年生 (5)	教員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. はい、いい環境は大きなメリットだと思います。	22	5	17	12	3	3	62 (87)
2. いいえ、より発展している企業地帯を優先します。	4	0	1	0	0	0	5 (7)

アンケート対象者 4 名 (6%) <その中に 2 年生 1 名、4 年生 1 名、5 年生 2 名>は問 13 に答えなかった。

問 12・問 13 は環境や自然に関係する問題で、問 12 はチェルノブイリ原発事故のことを忘れていないウクライナ国民にとって、福島第一原子力発電所の事故が富山県の長期滞中に障害になるかことを知れたかった。アンケート対象者大多数 62 名 (87%) にとって福島原発事故は富山への長期滞在を阻止する原因にならないことが分かった。かえって、富山

県の特徴である「自然が豊か」というキーワードを使えば、ウクライナ人留学生の多くを富山県に招待しやすくなると思う。

(問 14) 富山県・北陸地方の方の知り合いがほしいですか。

	1 年 生 (26)	2 年 生 (6)	3 年 生 (18)	4 年 生 (13)	5 年 生 (5)	教 員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. はい、富山県・北陸地方の方の知り合いを持つことは大きなメリットだと思います。	12	3	2	4	3	2	26 (37)
2. 知り合いを持ちたいが、どんな地方の方かは関係ないと思います。	12	3	15	8	2	1	41 (58)
3. 個人関係を作ろうと思いません。集団交流のレベルがいいです。	2	0	1	1	0	0	4 (6)

(問 15) 富山県の町はあなたの町と姉妹都市になってほしいと思いますか。

	1 年 生 (26)	2 年 生 (6)	3 年 生 (18)	4 年 生 (13)	5 年 生 (5)	教 員 (3)	合計 (%) (71 名)
1. はい、文化交流やビジネス関係にいい影響を与えたいと思います。	20	5	11	11	3	2	52 (73)
2. なにか意味があると思いません。	6	1	7	2	0	1	17 (24)

アンケート対象者 2 名<5 年生> (3%) は問 15 に答えなかった。

問 14・問 15 は国際交流・政治、国際活動などに関係がある。問 14 を分析すれば、アンケート対象者大多数 47 名 (87%) は「知り合いを持ちたいが、どんな地方の方かは関係ない」と答えた。特に目立っているのは 1 と 2 の選択肢を選んだ 1 年生と 3 年生の割合である。1 年生は「富山県・北陸地方の方の知り合いを持つ」にしたのは 12 名、「知り合いを持ちたいが、どんな地方の方かは関係ない」にしたのも 12 名 (1 : 1)。3 年生の場合は、「富山県・北陸地方の方の知り合いを持つ」にしたのはたった 2 名が、「知り合いを持ちたいが、どんな地方の方かは関係ない」にしたのは 15 名 (1 : 7)。その理由は 3 年生が日本語母語の方と練習する必要性を感じており、日本語をマスターするために日本人の相手はどんな地方の方でもいいと思っている。1 年生はまだその必要性はそれほど深く感じていないので観光地や冬のスポーツ場で、自然に恵まれている北陸地方からの方と優先的に知り合いた

いのであろう。

問 15 は政治、国際活動などに関わっている。アンケート調査の対象者になったウクライナでの日本語学習者の大多数 52 名 (73%) は富山県の町は自分の町と姉妹都市になってほしいと答え、自分の町と富山県・北陸地方の町は文化交流やビジネス関係にいい影響を与えたいと思ひ、自分がそれに参加することを期待するのではないかと思っている。

(問 16) 北陸地方とウクライナは教育・文化交流を行い、ビジネス・貿易等の関係を強めるのにどうすればいいと思ひますか。あなたからのアドバイス・提案・アイデアなどを聞かせてください。 _____

様々なアドバイスやアイデアなどが書かれているが、まだその分の分析は終わっていないので、将来的に分析し発表する予定である。

5. まとめ

本研究はキエフ国立言語大学の日本語学科の学生や教員を対象とし、2012 年 9 月に行った。71 人の対象者の回答を分析し、研究者は次の結論を導いた。

- ・ウクライナにおける日本語学習者は日本の地方知識が不足している。一番知られているところが関東・東海・関西および有名な観光地である北海道・沖縄などである。
- ・日本で留学や就職をしたい人は多いが、研究や自営業を考えている学生は少ない。留学や就職をし、日本に住みたい場所は 1. 関西 (キエフと京都は姉妹都市であることが関係しているのか)、2. 関東、3. 東海。住みたい場所は大都会や小さい町、田舎ではなく人口何十万人の都市。
- ・北陸地方の「自然が豊か」という面がとても魅力があり、北陸地方の友達を作りたく、自分の町と富山県の町が姉妹都市になってほしいと思う学生が多い。しかし、すでに北陸に住んでいるか住んでいた友達を持っている学生は 5 名だけで、一番多いのは新潟県 3 名、富山県からは無。
- ・アンケート調査対象者の大多数が福島原発事故は富山への長期滞在を阻止する原因にならないと思っている。
- ・アンケート調査の対象者は北陸地方について知識が浅くても、観光または教育・文化交流などの分野で富山県はウクライナと協力できると思っている。

6. 終わりに

研究者は日本語学習者の知識・認識調査をウクライナで行った。本研究は、観光産業と関連した研究になるであろう。次回は日本語学科の学生だけではなく、一般市民の知識を調査し、研究の分野を広げたい。今後とも最新データを基にして、その分野での研究をし続けたいと思ひ。

謝辞

本研究は平成 24 年度の富山県ひとづくり財団の助成を受けたものです。本研究を進めるに当たり多くの方々にお世話になりました。特に、キエフ言語大学・東洋言語学部・日本語学科、富山国際大学現代社会学部、アンケート調査にご協力していただいた皆様に感謝の意を表します。

参考資料

- ・富山県ロシア語ホームページ

<http://www.pref.toyama.jp/russian/index.html>

- ・北陸地方

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E9%99%B8%E5%9C%B0%E6%96%B9>

- ・キエフ国立言語大学・東洋言語学部

<http://knlushid.com/>

http://knlushid.com/?page_id=1889

<http://www.knlu.kiev.ua/faculties/faculty-of-eastern-studies>